



ドキュメンタリー映画

武蔵野

～江戸の循環農業が息づく～

循環農業の妙に、四季の美しさに引き込まれ、家族の笑顔に和む
東京で失われたかつての光景が今も続く、「日本農業遺産」認定の地
北武蔵野の落ち葉堆肥農法とそこに生きる人々

2018
キネマ旬報
文化映画
ベスト・テン
第6位!

江戸・東京300年の食卓を支えた
都市近郊農業農村の原風景



監督：原村政樹

音楽：鈴木光男

語り：小林綾子

プロデューサー：鈴木(神出)敏夫

(株)東文館プロダクション

映画「武蔵野」製作委員会

<http://www.cinema-musashino.com/>



東京30キロ圏に今なお残る世界最大の農用林。 四季の美しさ。江戸の循環農業の巧みさ。

ドキュメンタリー映画

武蔵野

～江戸の循環農業が息づく～

上映時間:111分

埼玉県南西部に日本最大の平地林がある。大都市近郊にこれほど広大な平地林が残されている場所は世界中でも他にはない。ここは360年程前の江戸時代、農家が木を植え、先祖代々手入れを続け、落ち葉を集めて堆肥を作り、毎年畑に施して、やせた原野を肥沃な大地に生まれ変わらせた江戸の開拓村。世界中の土を調査した土壌学者も目を見張る優れた畑の土で、森にはたくさんの生物が生息し、四季折々、美しい景観が人々を和ませる。

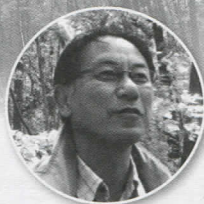
しかし首都圏に近いため、開発の波が押し寄せ、徐々に姿を消しつつある。そんな中、貴重な平地林を未来につなげたいと、市民が農家の応援に駆け付ける。工芸作家たちも間伐材で家具や日用雑貨を製作して森の価値を発信している。

毎年変わることなく繰り返されてきた森の恵みを活かす伝統の循環農法こそ持続可能な農業だと、若い後継者たちも積極的に取り組む。その価値が認められ、大都市圏で唯一、日本農業遺産に認定された。



映画『武蔵野』を
推薦します！

- 村上 龍 ●作家
澤地久枝 ●ノンフィクション作家
池内 了 ●名古屋大学名誉教授／宇宙物理学
熊沢喜久雄 ●東京大学名誉教授／植物栄養学・肥料学
樋口健二 ●フォトジャーナリスト
宇根 豊 ●百姓・農と自然の研究所代表
高橋卓也 ●山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局長



監督 ■ 原村政樹

1957年3月生まれ。埼玉県立松山高校卒業。上智大学卒業後フリーの助監督として映像の仕事始める。1988年桜映画社入社。以後、映画・TV番組を監督製作。2004年「海女のランちゃん」で長編記録映画の製作を開始。2006年「いのち耕す人々」。2008年「里山っ子たち」。2009年「里山の学校」。2013年「天に栄える村」。2013年、NHK新日本風土記「川越」製作。2015年にフリーとなって製作に取り組んだ「無音の叫び声」の映画と書籍は、「2016年第31回農業ジャーナリスト賞」W受賞。約40年前から川越市在住。



この地域(埼玉県川越市・所沢市・狭山市・ふじみ野市・三芳町)の農家は雑木林(平地林)をヤマと呼び、「人間はヤマに生かされている」と言う。「人間も自然の一部である」。「先祖が残してくれた大切なものは変えてはならない」とも。変化が激しい現代にあって、変わらないことの大切さを教えてくれる。映画では、この地の伝統農法の神髄に迫り、効率重視の工業的価値とは対極にある「農」の深い精神文化を描いている。

映画「武蔵野」製作委員会 会長・大野松茂 <http://www.cinema-musashino.com/>
事務局:〒350-1133 川越市砂 846-3 鈴木方 Tel.&Fax.049-242-4811 E-mail: suzutoshi0620@nifty.com
後援:川越市・所沢市・狭山市・ふじみ野市・三芳町・武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会

東京上映

3月23日(土)～4月5日(金) 連日10:00～ 1日1回上映

公開期間中に監督やゲストによる舞台挨拶、トークイベントを開催予定！
当日:一般1700円/大・専・シニア(60歳以上)1200円/高・中・障害者1000円



ポレポレ東中野

TEL 03 3371 0088
www.mmjp.or.jp/pole2/
JR東中野駅西口改札北側出口より徒歩1分
地下鉄大江戸線東中野駅A1出口より徒歩1分

